

イカナゴ情報(2012年7月)No.2

平成 24 年 7 月 23 日, 稚内水産試験場調査研究部, Tel 0162-32-7166, 担当: 板谷

これまでの漁獲物のサイズ組成の状況と, 7 月 17 日に北洋丸にて観測した水温と魚探の情報を報告します。

【漁獲物サイズ】 大型主体, 小型魚少ない

6 月からの漁獲物サイズ組成の推移を図 1 に示します。解禁当初から体長 22~25cm といった大型魚 (3 歳以上) が主体となっています。7 月 19 日のかけまわしの漁獲物も同様に大型魚主体となっています。豊漁の年は, 漁期はじめから体長 20cm 以下の小型魚 (2 歳) が見られるのですが, 今年は小型魚が見られていないことから, 豊漁は見込めないかもしれません。今後の漁獲動向を注視していきます。

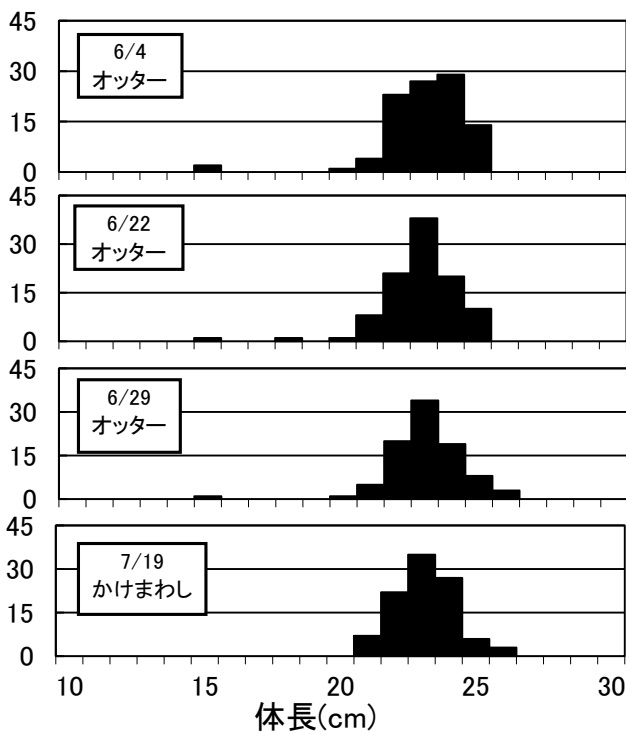


図 1. 漁獲物の体長組成の推移.

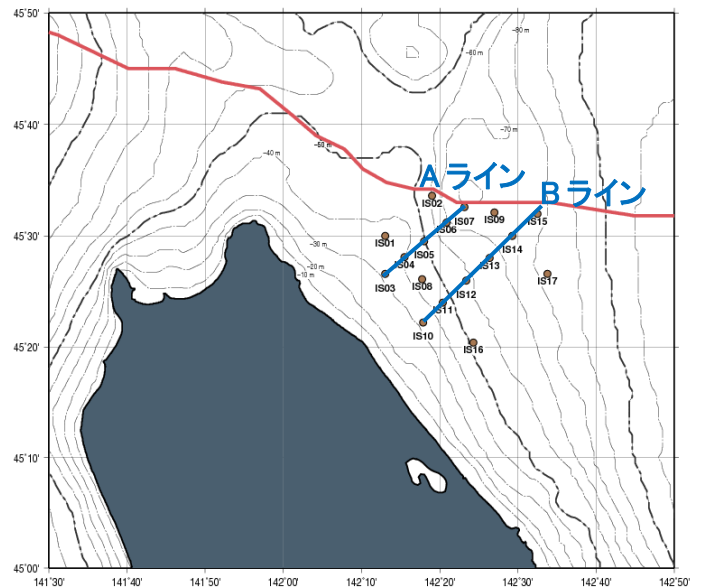
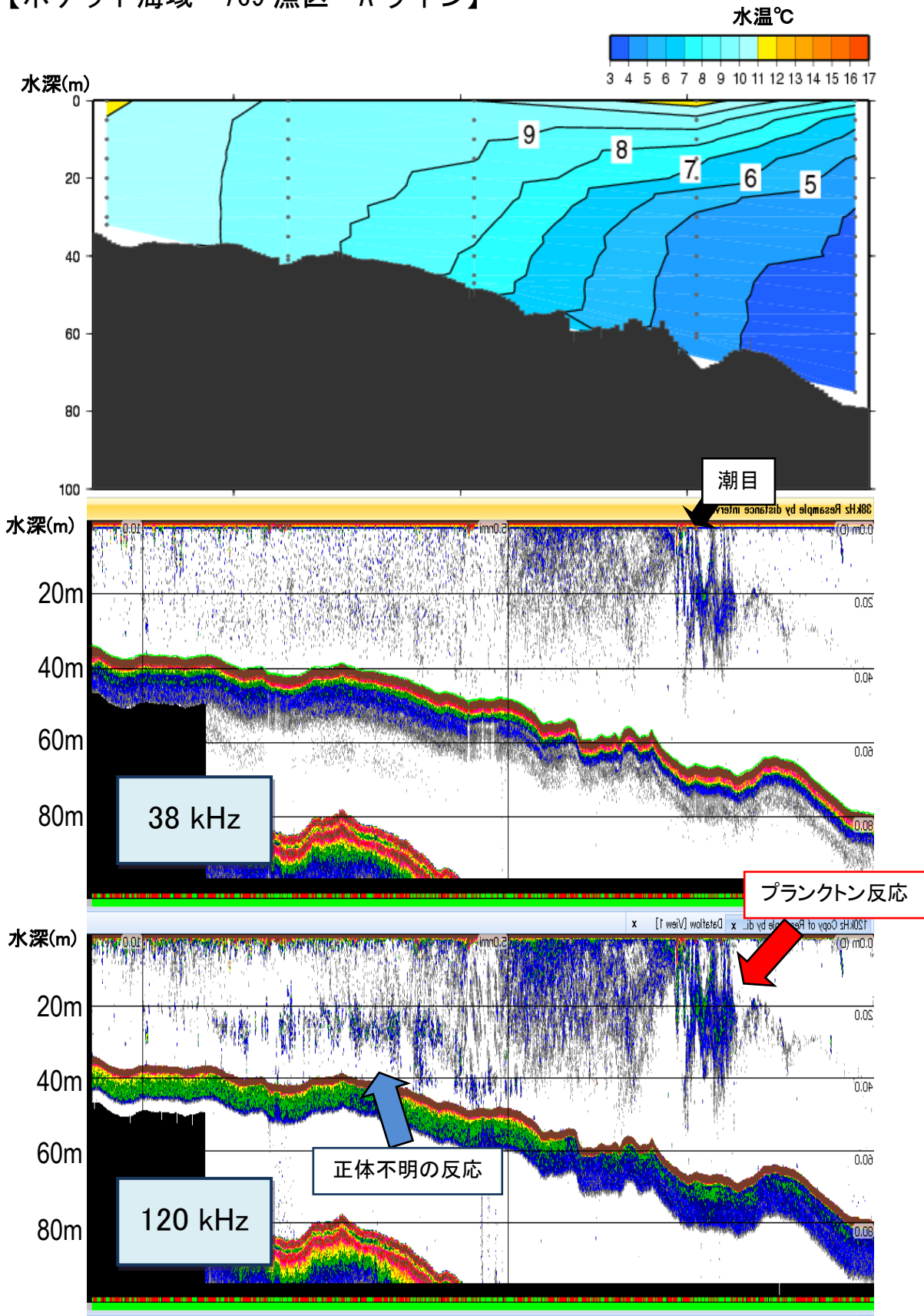


図 2. 調査海域図(7 月 17 日実施).

【漁場水温と魚探反応】 冷水差し込み, 底水温は低め

7 月 17 日の日中に, ポケット海域 (769 漁区・A ライン) と猿払沖 (4 漁区・B ライン) 周辺を水温観測と魚探観察を実施しました (別紙)。ポケット海域 (A ライン) の水深 60m 付近の底水温は 4~5°C と低くなっていました。海底付近では, 魚群や餌となるプランクトン反応が弱くなっていました。猿払沖 (B ライン) の水深 70m 付近では底水温が 4°C 前後と低く, この付近には餌となるプランクトンの反応がほとんど見られませんでした。水深 60m 以浅の沿岸寄りでは水温が 8°C 以上となっており, 中層域には強いプランクトンの反応が見られることから, 今のところ, イカナゴの漁場形成にとって水温や餌の分布等の条件が良くない状況と考えられます。

【ポケット海域・769 漁区・Aライン】



【猿払沖・4漁区・Bライン】

水温℃

